

この資料は、冷戦終結後の核資源や原子力平和利用を考えるシンポジウムの開催に役立てるために、読売新聞が1992年8月下旬にロシア秘密都市3か所を取材（内部資料）し、その内容を要約したものである。基本的には現地での取材に基づいているが、一部は既存刊行物や資料を参考にしており、

ロシア核秘密都市概要

1 9 9 2 年 8 月

この資料は、冷戦終結後の核管理や原子力平和利用を考えるシンポジウムの討議に役立てるために、読売新聞が92年6月下旬にロシア核秘密都市3か所取材した際の、取材内容の概要をまとめた。基本的には現地での取材に基づいているが、一部は既存刊行物や資料を参考にしている。

10か所あるとされ、うちチェリャビンスク防、トムスク防、ウラヌノヤルスク防の3か所が、プルトニウム生産が、軍用兵器工場から、軍事用プルトニウムを生産してきた。それぞれの都市には軍事生産を一手に担う基幹企業があり、その色濃く下町的な性格が強い。基幹企業の総裁が、実質的に秘密都市長として、これとは別に行政組織の長としての市長がおり、市議会もある。ソ連崩壊後は、基幹企業をロシア原子力省が管轄している。

各3か所の秘密都市は、それぞれ10万人前後の人口を持ち、鉄条網等で周辺地域と隔離されているが、都市としての機能は一般都市と変わらず、学校、病院、食品等の販売店、娯楽施設なども完備している。チェリャビンスク防のように、都市内にホテルを持つ都市もある。秘密都市の中は基本的に住居地区と操業地の立地する地域に分かれており、操業施設に入ること、操業員など特定の人間に限られている。

各都市名は、最寄りの大都市の名前に、数字を付け加えた形になっているが、数字は最も近い郵便局の支局の番号が採用されている。

各3都市とも同じ設計所によって都市計画が作られたので町並みがよく似ている。ロシアの一般都市より余り余りきれいに作られている。治安がいい。物資が豊か。バスなどのインフラがよく整備されており、多くの家庭では、プルトニウム生産から温水が引かれている。

これまで、ほぼ100%軍需で生きてきたが、Pロ生産停止で収入が激減、閉鎖性を徐々に解き、民間転換で生きようとしている。

事故放射線汚染を引き起こしていることや、国家に直結して経済的にも恵まれ、地方経済が振興されてきたことから、周辺地域の反感が強い。このため、秘密都市住民の9割以上が秘密都市の解放に反対している。ロシア政府は、各秘密都市の地位や立場を明確に位置付け、その円滑な存続を図るための法律を準備している。

(各秘密都市の核施設等は別表に示す)

核秘密都市

【核秘密都市の概要】

◆旧ソ連の核秘密都市は10か所あるとされ、うちチェリャビンスク65、トムスク7、クラスノヤルスク26の3か所が、プルトニウム生産炉、軍用再処理工場を持ち、軍用プルトニウムを生産してきた。それぞれの都市には軍事生産を一手に担う基幹企業があり、その企業城下町的な性格が強い。基幹企業の総裁が、実質的に秘密都市No1で、これとは別に行政組織の長としての市長がおり、市議会もある。ソ連崩壊後は、基幹企業をロシア原子力省が管轄している。

◆3か所の秘密都市は、それぞれ10万人前後の人口を持ち、鉄条網等で周辺地域と隔離されているが、都市としての機能は一般都市と変わらず、学校、病院、食品等の販売店、遊園地なども完備している。チェリャビンスク65のように、都市内にホテルを持つ都市もある。秘密都市の中は基本的に住居地区と核施設の立地する地域に分かれており、核施設地域に入ることは、従業員など特定の人間に限られている。

◆都市名は、最寄りの大都市の名前に、数字を付け加えた形になっているが、数字は最も近い郵便局の支局の番号が流用されている。

◆3都市とも同じ設計所によって都市計画が作られたので町並みがよく似ている。ロシアの一般都市より金をかけてきれいに作っている。治安がいい。物資が豊か。バスなどのインフラがよく整備されており、多くの家庭では、プルトニウム生産炉から温水が引かれている。

◆これまでは、ほぼ100%軍需で生きてきたが、プルトニウム生産停止で収入が激減。閉鎖性を徐々に薄め、民需転換で生きようとしている。

◆放射能汚染を引き起こしていることや、国家に直結して経済的にも恵まれ、地方経済から隔離されてきたことから、周辺地域の反感が強い。このため、秘密都市住民の9割以上が秘密都市の解放に反対している。ロシア政府は、核秘密都市の地位や立場を明確に位置付け、その円滑な存続を図るための法律を準備している。

(各秘密都市の核施設等は別表に示す)

核秘密三都市

